

令和7年度 西東京市立田無小学校 学校関係者評価表						
学校教育目標	◎よく考え工夫する子ども ◎仲よく、助け合う子ども ○よく働き、責任をもつ子ども ○きまりを守り、礼儀正しい子ども ○健康で、ねばり強い子ども					
目指す学校像	○「誠実に」「着実に」「確実に」児童の成長を促す教育を進める学校を目指す。～明日も通いたくなる学校を目指して～					
目指す子ども像	○「たぐましい体と心 なごやかな心 しかりとした学び 笑顔いっぱい田無の子」					
目指す教師像	○「西東京あったか先生プロジェクト」を踏まえ、田無小学校の教育目標の達成に向かい、力を合わせて取り組む教職員集団 (1)分かる授業を工夫し、授業力の向上に励む教職員 (2)常に児童理解に努め、一人一人の児童に安心と元気を与える教職員 (3)保護者の不安・悩みや要望等を受け止め、家庭及び地域と連携・協働する教職員 (4)一人一人が組織の一員としての自覚をもち、チームで職務を推進する教職員					
	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力	週3回、朝学習の時間を設定し、漢字・計算プリントやMonoxer、読書などに取り組ませる。	4	4	学習アプリ「Monoxer」の活用、また2学期途中からは「ミライシード」も追加され、児童が楽しみながら問題に取り組む体制を作ることができた。AI判定などもあり、分らない問題にぶつかったときなどは、問題の難易度を落として新たに問題を作成されるなど、児童一人一人に沿った内容で学ぶことができている。基礎・基本の定着をタブレット端末で効率的に行うことができている。一方で漢字練習はノートと鉛筆を用いて行うべきなので、従来通りの練習方法も励行したい。ハイブリッド型の朝学習を定着させていきたい。	4	(タブレット端末を活用して) 楽しみながら取り組めているのがよいと思います。放課後子ども教室で行っている漢字教室でも、最初のころに比べて漢字に興味をもつ子どもたちが増えてきています。
	ペアやグループでの学び合いや、タブレット端末を活用した学習となるように、授業改善に取り組む。	4	3	全教員が、タブレット端末を活用した授業づくりに挑戦している。一人一人が自力解決した結果を共有する際や、単元の終末に発展的な学習において、自分の興味や関心に応じて一人一人が追究したいものを調べる際に、タブレット端末を有効に活用する等の授業改善が進んでいる。ペアやグループで学習する際の手段の一つとして、タブレット端末を有効活用している。3学期に1年生もタブレットが配布され、全学級での実施がなされた。	4	タブレット端末の有効活用が、時代の流れでよいと思う。タブレット端末の活用が全学級うまくいっていると思います。交流した児童の皆さんはタブレットを使いこなしていた。
健康な体と心の育成	他者との関わりからよいところを見付け、認め、自他を大切にすることを育てる指導をする。	4	3	アンケートにおいて児童の92％が「お互いを大切にしている」と回答している。学級の児童同士のかかわりはもちろん、今年度は異学年交流の機会を多くし、児童がその良さを実感した。また、「ライブパフォーマンス」をロング昼休みに実施し、回を重ねるごとに参加希望の児童が増えてきている。お互いの表現に大きな拍手を送り合う姿からも「お互いを大切にしている」様子が見られた。次年度もこれらの取組を継続し、さらに充実させていきたい。	4	子どもたちと話す機会がありますが、お互いを尊重する姿勢が見られてとても良いですね。交流した児童の皆さん、礼儀正しく元気でした。異学年活動のおかげで学年を超えて仲が良いと感じます。ロング昼休みはとてもよい活動だと思います。ライブパフォーマンスを通して、自分に自信をもち、発表する力がついてきていることは素晴らしいと思います。自分自身を大切にすることを養うことが、他者も大切にできることにつながるはずです。
	体力テストを基に、体力向上キャンペーンを設定し、課題の改善に取り組む。 縄跳び、マラソン旬間を実施し体力向上に取り組む。	4	4	1学期は長縄、2学期は持久走、3学期は短縄のキャンペーンを実施した。「外での活動が減ってしまったのではないかい」というご心配の声を一部の保護者からいただいたが、学期ごとに集中して運動に取り組んだり、全校集会を校庭で行ったりするなど、屋外での活動を増やしている。長縄や短縄については、学校全体の取組が終了してからも自主的に取り組む児童がたくさんいる。キャンペーンをきっかけとして、児童一人一人が主体的に体力向上を目指すようになっている。	4	子どもの体力が落ちてきている時代ですので、外で活動することで少しでも体力がつくことを望みます。
開かれた学校	地域環境・人材(保護者)を活用・連携した学習を各学年年間5回以上実施する。	4	4	1年生は、幼稚園・保育園との交流、2年生は、まちたんけんで地域のお店へのインタビュー活動、3年生は、西原総合教育施設にて西東京についての学習、4年生は、盲導犬利用者の講演、5年生は、保育園児との交流や田無小周辺のごみ拾い、6年生は、ASTAでのお仕事体験など、全学年で地域との交流を図ることができた。来年度も今年度同様、地域の環境や人材を活用した授業を実施したい。	4	児童が地域に出ていく機会が多くなったと感じています。おやじの会としても、職業講話等で協力させていただきます。今後もASTAを活用してください。
	学期に3回程度の保護者等の学校来校日の設定及び文書案内と学校配信一斉メール、HP更新を合わせて100回以上行う。	4	4	HP「ひとこと日記」では、各学年の学習や行事の様子を随時アップしている。「校長のつづき」では、校内での出来事を校長先生の視点を通して伝えている。お便りは、印刷物と合わせ、すぐるでも発信し、様々な形で情報発信を丁寧に行っている。内容を工夫した発信をさらに継続していく。	4	校長先生のHP更新を楽しみにしている地域の方の声を聞きます。地域の方が学校に関心をもってくれることはよいことだと思います。
特別支援教育の推進	支援を要する児童や保護者の情報を、生活指導タ会等を活用して、全職員で共通理解を図り、SC、SSW等関係機関と連携し、全校的な支援を行う。月1回以上の校内支援委員会の開催を行う。	4	3	生活指導タ会等で、各学級の要配慮児童について教職員での情報共有ができています。また、保護者との面談は定期的なものだけでなく、必要に応じて随時実施している。「心配や問題を相談しやすい」と回答する保護者が増えている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する保護者も増え、これらとの連携や協力も密に行うことができています。	4	情報共有ができてるのは、先生、保護者、児童も安心できてよいと思いました。
	特別支援学級と通常の学級の交流を、各学級が年間3回以上行う。また、特別支援教育の手法を活用した学習活動の充実を図る。	4	4	各学年での交流授業や行事での交流、交流給食の実施などを行い、児童の相互理解を深めることができた。1年生と4年生において、特別支援学級担任が通常学級児童への理解啓発授業を実施した。次年度はこれを全学級で実施できるようにしていく。特別支援級担任と通常学級担任の協力や連携をさらに強めていきたい。	4	わかば学級が町探検で来てくれたのがとてもよかったです。ぜひ来年度もお待ちしております。
業務改善・働き方改革	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	4	3	週当たりの在校時間が60時間を超える教職員はいないが、18時以降も職員室で働いている教員や休日出勤をしている教員が散見される。今後もスクールサポートスタッフ、学年教育アシスタント等の有効活用を励行したり、教育現場のDX化を推進したりしながら教員の働きやすい環境を整えていきたい。	4	まだまだ先生方の残業が多いと感じています。SSS、学年EA、コーディネーターを活用していただき、今後減らしていけるとよいと思います。先生方の体調も心配なので、無理しすぎずよろしく願ひいたします。(保護者目線でいうと)「すぐる」の欠席連絡の確認のタイミングが担任によって違うのが気になりました。先生方の出勤時間がそれぞれなのだと思いますが。
	会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示し、取り組む。	4	3	管理職と教職員一人一人と面談をする中で、それぞれがライフワークバランスについての目標を設定することができた。その目標を達成するために、会議や行事について効率化できる部分を見出して改善することができている。引き続き効率のよい働き方を見出していく。	4	先生あつての学校ですので、先生方一人一人の生活を最優先に進めていただければと思います。